

教科(科目)	地理歴史（地理総合）	単位数	3単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『地理総合』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	東京書籍『地理総合 ワークノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

3 学習計画

※a…知識・技術、b…思考・判断・表現、c…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※	備考
1	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	1 緯度・経度 【24時間、地球は眠らない。】	15	a、b、c	○地図帳、電子黒板、地球儀などを活用する。
	5	第1章 私たちが暮らす世界	2 地球儀と世界地図 【丸い地球を、平らな紙に正しく描けるだろうか。】		a、b、c	
			3 日本の位置と領域 【小さな島が、大きな意味をもつのはなぜか？】		a、b、c	
	5	第2章 地図や地理情報システムの役割	4 地図の種類 【地図を使わない人は、ほとんどいない。】	16	a、b、c	○地図帳を活用する。
	6		5 地形図のルール 【地形や土地利用の歴史がひと目でわかる。】		a、b、c	
			6 地理情報システムと地図			○地理情報システム (GIS)

			【地図の可能性は、まだまだ広がる。】		a、b、c	の活用例を紹介する。
		1 学期期末考査		1		
2	7	第3章 資料から読み取る現代世界	7 交通の発達 【地球は、どんどん小さくなっている？】 8 国境をこえる人々の移動 【仕事に、旅行に。人々は外国をめざす。】 9 拡大する貿易 【国どうしの貿易は、どう変化しているのか。】	26	a、b、c a、b、c a、b、c a、b、c a、b、c	○各種交通手段の特徴について考察する。 ○統計資料を読み取り、国際移動の現況を考察します。 ○統計を用いて、貿易品目・産業構造・国家間の関係について考察します。 ○写真や地図を用いて、それぞれの地形の特徴とその利用について理解します。
	9	第2編 国際理解と国際協力	10 山地の暮らし 【山に住むには、どんな工夫が必要なのか。】			
	10	第2節 生活文化と自然環境① 地形	11 平野の暮らし 【流れる川が、地形を変えていく。】 12 海岸の暮らし 【さまざまな海岸と、そこでの暮らしとは。】			
		2 学期中間考査		1		
	10	3 節 生活文化と自然環境② 気候	13 多様な気候とその分布 【なぜこれほど違う？暑さ、寒さ、雨の量。】	19	a、b、c	○地図や写真を用いて、地域による気候の多様性を理解します。
	11		14 熱帯の人々の暮らし 【強い日差しと激しい雨。人の暮らしと農業は？】 15 乾燥帯の人々の暮らし 【雨が少ない！どうやって水を得る？】 16 温帯の人々の暮らし 【クーラー不要の地域からストーブ不要の地域まで。】 17 亜寒帯・寒帯の人々の暮らし 【長い冬を過ごすための食料や、町の工夫とは。】		a、b、c a、b、c a、b、c a、b、c	○雨温図の読み取り方を学び、気候区ごとの特徴を理解します。 ○写真を用いて、自然環境とそれに対応する人々の生活の様子を把握します。
		2 学期期末考査		1		
3	12	第2章 さまざまな地球的課題と国際協力	18 地球環境問題 【大気と海に、何が起きているのだろう。】 【森林減少と砂漠化、その原因を探る。】	24	a、b、c	○統計から地球温暖化の現状を把握する。
	1	1 節 地球環境問題	20 資源・エネルギーの偏在		a、b、c	○写真やグラフを用いて、地球社会の持続可能性という観点で考察する。
	2	2 節 資源・エネルギー問題	21 化石燃料から再生可能エネルギーへ 【地球を、「電池切れ」にさせないために。】		a、b、c	○人口ピラミッドの作成や統計の読み取りを行う。
		3 節 人口問題	22 発展途上国の人口問題 23 先進国の人口問題		a、b、c	○食の安全に関する問題について、身近な食品を例に考察する。
		4 節 食料問題	24 食料需給をめぐる問題 【増産しても、まだ足りない。なぜだろう。】		a、b、c	

		学年末考査	1		
		まとめ 日本の農業について	各単元の総復習	1	

計 105 時間 (50 分授業)

4 評価の観点と趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解している。 地図や地理情報システムなどを用いて、諸資料から情報を調べ、まとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、地理に関わる諸事象について、直面する諸課題を解決している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや課題、ワークノートなどの提出。 ・定期考査の実施（年4回）。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや課題、ワークノートなどの提出。 ・定期考査の実施（年4回）。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや課題、ワークノートなどの提出。 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・レポート、課題、ワークノートなどの提出物は、担当の指示に従って、必ず提出すること。学期、学年の成績の重要な評価点となります。

6 担当者からの一言

高校での地歴公民科の最初の科目は、地理総合からスタートします。農業分野では、地形や気候、土壌などが密接に関連するからです。また、近年の人類が直面する地球環境問題や人口問題、食糧問題など農業への影響がとても大きな問題です。

教科(科目)	公民 (公共)	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	清水書院『私たちの公共』				
副教材等	清水書院『私たちの公共 ワークノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かみ養われる、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

3 学習計画

※a…知識・技術、b…思考・判断・表現、c…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※	備考
1	4	第1章 公共的な空間における基本原理	1 個人の尊重と社会 2 民主主義、立憲主義 3 法はなぜ必要なのか	10	a、b、c	○資料やワークノートなどを活用する。
	5	第2章 私たちの生活と法	1 個人と法 2 日本国憲法の成立と基本原理		a、b、c	
	6		3 平等に生きる権利 4 自由に生きる権利 5 人間らしく生きる権利 6 新しい人権	15	a、b、c	○実際の事件や裁判を取り上げ、議論する。

		第3章 民主政治の成立と課題	1 世界の政治制度 2 政治参加と主権者（有権者） 3 選挙と政党		a、b、c	○資料や映像などを活用する。 ○模擬投票を行う。
		1 学期期末考査		1		
2	7	第4章 日本の政治機構	1 国会の役割としくみ 2 内閣と行政機関 3 裁判所の役割としくみ 4 市民生活と司法参加 5 地方自治と住民の生活	15	a、b、c	○電子黒板を使って、資料や組織図を示す。 ○映像なども活用する。
	8					
	9					
		第5章 国際政治のしくみと役割	1 国際政治の成り立ち 2 国際連合の設立とその役割		a、b、c	
		2 学期中間考査		1		
	10	第6章 私たちと経済活動	1 私たちと経済 2 仕事と社会 3 国民経済とGDP	13	a、b、c	○資料や写真を用いて、私たちの生活と経済の関わりを理解します。
	11	第7章 経済社会のしくみと役割	1 社会のしくみとしての市場 2 市場の機能 3 市場の限界 4 金融とそのはたらき 5 財政とそのはたらき		a、b、c	○コンビニなどで販売されている身近な商品を取り上げる。 ○新紙幣と旧紙幣の比較。 ○資料を使って、税金の知識を深める。
		2 学期期末考査		1		
3	12		6 現代の企業 7 労働問題 8 社会保障の役割 9 少子高齢化と財政の維持可能性	12	a、b、c	○求人票の解説。 ○労働基準法の理解。
	1					
	2					
	3					
		学年末考査		1		
		まとめ	日本の政治・経済のまとめ	1		

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価の観点の趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	- 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解している。 - 諸資料から、政治的・経済的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基本に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。	知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、政治経済に関わる諸事象について、直面する諸課題を解決している。
評価方法	- 以上の観点を踏まえ、 - レポートや課題、ワークノートなどの提出。 - 定期考査の実施（年4回）。 などから、評価します。	- 以上の観点を踏まえ、 - レポートや課題、ワークノートなどの提出。 - 定期考査の実施（年4回）。 などから、評価します。	- 以上の観点を踏まえ、 - レポートや課題、ワークノートなどの提出。 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・レポート、課題、ワークノートなどの提出物は、担当の指示に従って、必ず提出すること。学期、学年の成績の重要な評価点となります。

6 担当者からの一言

この科目は、生徒の皆さんが、将来社会に進出するのに必要な基本的な一般常識を学習します。政治や経済、国際問題、地球環境問題など現実の社会が抱える問題を取り上げ、将来を担う皆さんと一緒に考えて考え、話し合っていきたいと考えています。

教科(科目)	政治経済 (公共)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年 (選択)
使用教科書	実教出版『最新 政治・経済』				
副教材等	清水書院『パスポート 政治・経済問題集 最新版』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい 勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

- ・広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。
- ・現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論を理解させる。
- ・資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
- ・現実社会の複雑な課題を把握し、説明するとともに、構想する力、議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。
- ・現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

3 学習計画

※a…知識・技術、b…思考・判断・表現、c…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※	備考
1	4 5	第1部 第1編 現代日本の政治	1章 現代国家と民主政治 2章 日本国憲法と基本的人権	10	a、b、c a、b、c	○資料や問題集などを活用する。
	6 7		3章 日本の政治制度と政治参加	15	a、b、c	○資料や問題集などを活用する。

		1 学期期末考査		1		
2	7	第2編 現代日本の経済	1 章 現代の経済社会	15	a、b、c	○資料や問題集などを活用する。
	8		2 章		a、b、c	
	9		国際協調と大衆社会の広がり			
		2 学期中間考査		1		
	10	第3編 現代日本における諸課題の探求	日本経済のあゆみとこれから	14	a、b、c	○資料DVD等の映像資料を活用する。
	11					
		2 学期期末考査		1		
3	12	第2部 第1編 現代の国際政治 第2編 第2編 現代の国際経済	1 章 国際政治の動向と課題	12	a、b、c	○資料やワークノートなどを活用する。
	3 章 国際経済の動向と課題		a、b、c			
			学年末考査		1	

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	- 現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身につけ、理解を深めている。 - 諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できている。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	- 以上の観点を踏まえ、レポートや課題、ワークノートなどの提出。 - 定期考査の実施（年4回）。 などから、評価します。	- 以上の観点を踏まえ、レポートや課題、ワークノートなどの提出。 - 定期考査の実施（年4回）。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、レポートや課題、ワークノートなどの提出。 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・レポート、課題、ワークノートなどの提出物は、担当の指示に従って、必ず提出すること。学期、学年の成績の重要な評価点となります。

6 担当者からの一言

普段からTVやネットのニュース、新聞などによって見識を広め、情報収集を行う習慣を養いましょう。興味を持った出来事について詳しく調べることでさらに理解が深まります。社会での出来事は、自分の日常生活と身近なところにつながっている場合も多いものです。日本と世界、過去と現在、歴史と今のつながりを学んでいきましょう。

教科(科目)	地理歴史（歴史総合）	単位数	2単位	学年(コース)	3学年
使用教科書	帝国書院『明解 歴史総合』				
副教材等	帝国書院『明解 歴史総合 ワークノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①心身ともに健康で調和のとれた人格の形成を目指すとともに、現代の農業に対応し、地域に貢献できる力を育成する。 ②体験的な活動をととして、望ましい勤労観・職業観を育み、多様な課題に対応できる能力を育成する。 ③社会や地域の一員としての自覚を持ち、自らの成長のために挑戦しようとする心を育成する。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①知識や技能を習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う教育活動を展開します。 ②課題研究などの授業を通して、課題解決を図る探究的な学習活動に取り組みます。 ③地域や外部機関と連携し、地域や社会の方々との交流活動に取り組みます。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 学習計画

※a…知識・技術、b…思考・判断・表現、c…主体的に学習に取り組む態度

学期	月	授業計画	学習内容	時間	評価の観点※	備考
1	4	2部 近代化と私たち	1章 江戸時代の日本と結び付く世界	10	a、b、c	○資料やワークノートなどを活用する。
			2章 欧米諸国における近代化		a、b、c	
	5		3章 近代化の進展と国民国家形成		a、b、c	
	6		4章 アジア諸国の動揺と日本の開国	15	a、b、c	○資料やワークノートなどを活用する。
	7		5章 近代化が進む日本と東アジア		a、b、c	

		1 学期期末考査		1		
2	7	3部	1 章	15	a、b、c	○DVD等の映像資料を活用する。
	8	国際秩序の変化や大衆化と私	第一次世界大戦と日本の対応			
	9	たち	2 章			
		2 学期中間考査		1		
	10		3 章	14	a、b、c	○資料DVD等の映像資料を活用する。
	11		日本の行方と第二次世界大戦			
			4 章			
			再出発する世界と日本		a、b、c	
		2 学期期末考査		1		
3	12	4部	1 章	11	a、b、c	○資料やワークノートなどを活用する。
	1	グローバル化	冷戦で揺れる世界と日本			
		と私たち	2 章			
			多極化する世界			
		学年末考査		1		
		各単元の総復習		1		

計 70 時間 (50 分授業)

4 評価の観点と趣旨

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養っている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや課題、ワークノートなどの提出。 ・定期考査の実施（年4回）。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや課題、ワークノートなどの提出。 ・定期考査の実施（年4回）。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートや課題、ワークノートなどの提出。 などから、評価します。

5 課題・提出物等

・レポート、課題、ワークノートなどの提出物は、担当の指示に従って、必ず提出すること。学期、学年の成績の重要な評価点となります。

6 担当者からの一言

普段からTVやネットのニュース、新聞などによって見識を広め、情報収集を行う習慣を養いましょう。興味を持った出来事について詳しく調べることでさらに理解が深まります。社会での出来事は、自分の日常生活と身近なところでつながっている場合も多いものです。日本と世界、過去と現在、歴史と今のつながりを学んでいきましょう。